

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昨日(11日)17時21分と21時09分に桜島の昭和火口(南岳東斜面、標高約800m)で爆発的噴火¹⁾が発生しました。

桜島では、過去の事例から見ると小規模な噴火であっても、火砕流(火口から約1km程度流下)が発生する可能性があります。

また、火口から2km程度の範囲に弾道を描いて飛散する大きな噴石が達する可能性もあります。

火口から2km程度の範囲では警戒が必要です。

桜島では、火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続しています。予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙活動の状況(図1, 2)

昨日(11日)17時21分と21時09分に昭和火口で爆発的噴火が発生しました。17時21分の噴火による噴煙の高さは火口縁上2,200mで、南東に流れ、弾道を描いて飛散する大きな噴石が五合目まで達しました。また、21時09分の噴火による噴煙の高さは火口縁上2,200mで、南に流れ、弾道を描いて飛散する大きな噴石が六合目まで達しました。

昭和火口で爆発的噴火が発生したのは4月8日以来です。

・ 昭和火口周辺の状況(図3, 4)

昨日17時21分の噴火発生後に行った黒神河原での赤外熱映像装置²⁾による現地調査では、火口から東側に周辺よりやや温度の高い細い筋状に伸びる噴出物を確認しました。

また、風下の野尻町から有村町付近までの広い範囲で降灰を確認しました。

・ 地震・微動活動の状況

爆発的噴火に伴う火山性地震を観測しましたが、火山性地震及び火山性微動の発生は少ない状態で経過しました。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

2) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

※ この資料は気象庁のほか、大隅河川国道事務所、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「25000分の1」地図画像を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

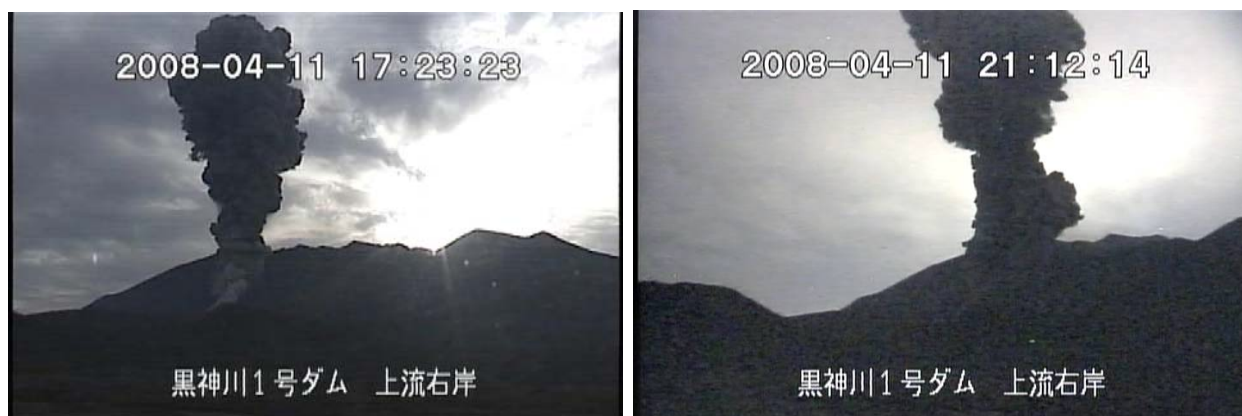


図 1 桜島 昭和火口で発生した 11 日 17 時 21 分（左）と 21 時 09 分（右）の爆発的噴火
（大隅河川国道事務所提供 昭和火口の東約 3.5km の監視カメラ）

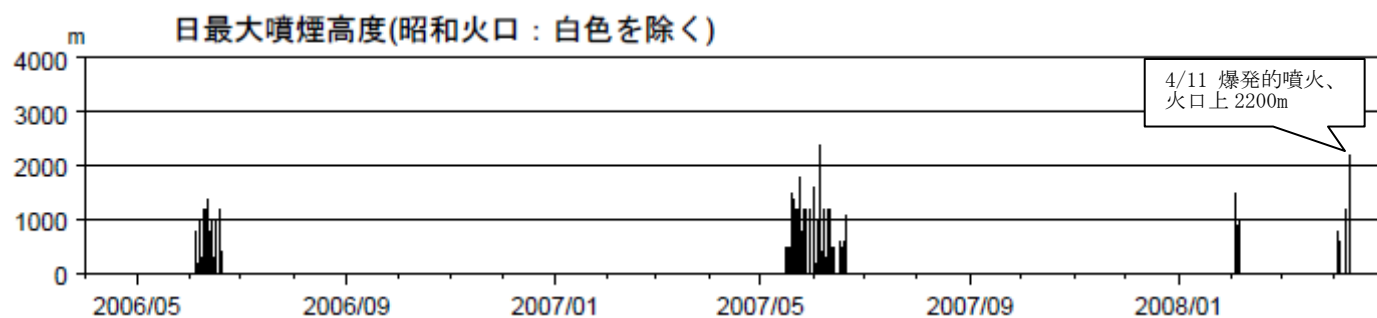


図 2 桜島 最近 2 年間の昭和火口の噴煙経過図(2006 年 4 月～2008 年 4 月 11 日)
・昭和火口では 4 月 3 日の噴火以降、断続的に噴火が続いています。

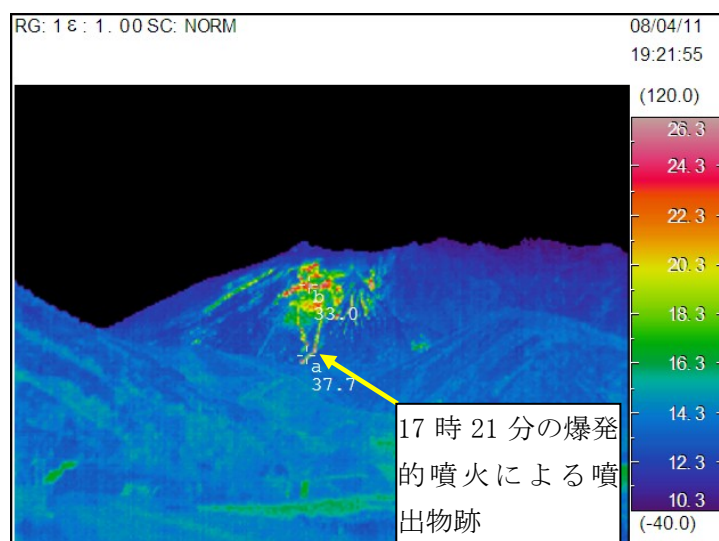


図 3 桜島 赤外熱映像装置による 17 時 21 分の爆発的噴火による噴出物跡
(11 日 19 時 21 分黒神河原より撮影)

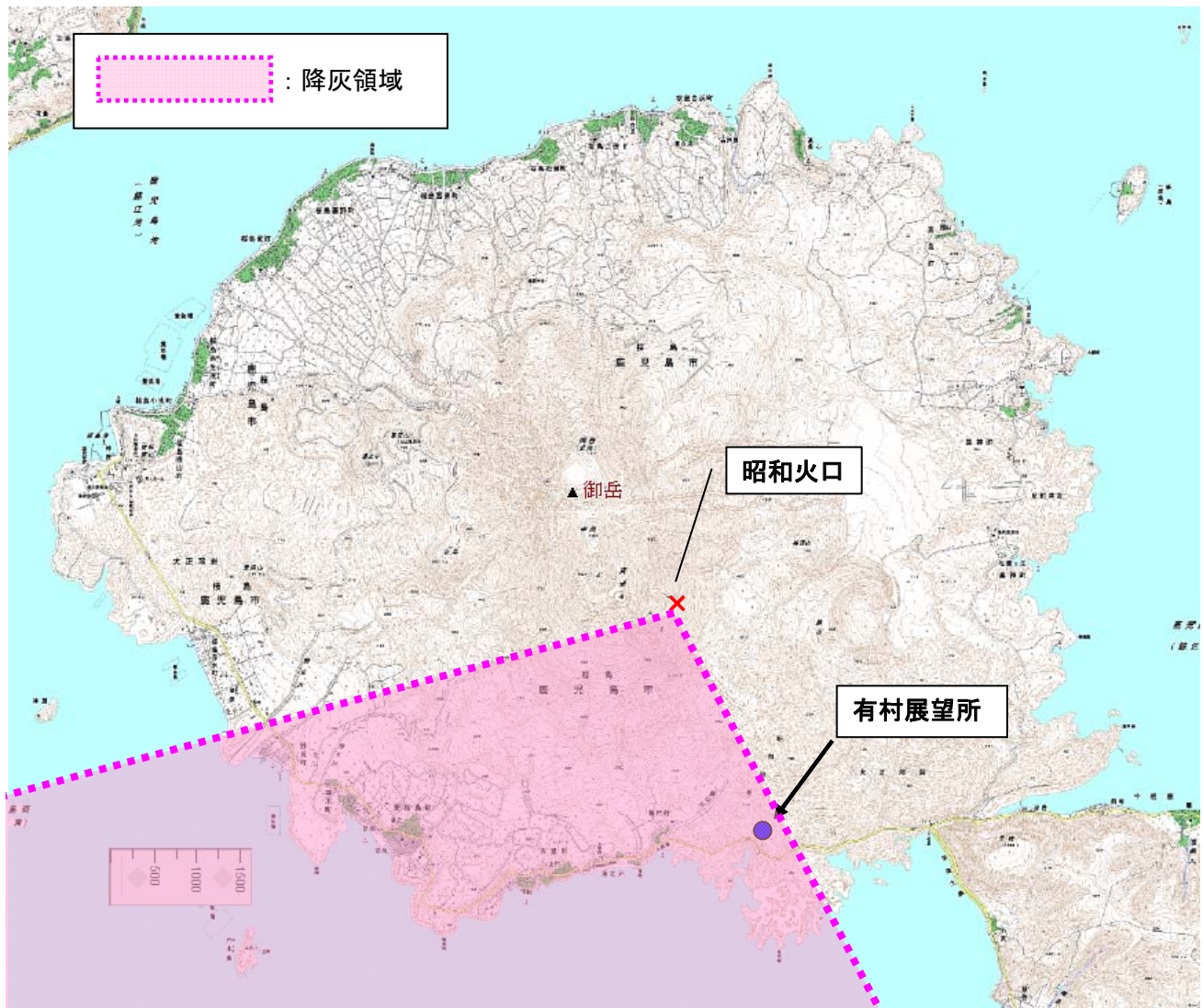


図 4 桜島 降灰の状況(11 日 20 時頃観測)
・昭和火口の南東から南西側の広い範囲で降灰を確認しました。